

学 位 論 文 の 要 旨

氏 名 林 正子 印

1 論 文 題 目

「博文館「太陽」と近代日本文明論——ドイツ思想・文化の受容と展開」

2 論 文 の 要 旨

学位論文「博文館「太陽」と近代日本文明論——ドイツ思想・文化の受容と展開」（勉強出版より2017年11月刊行 A5判 全519頁）は、「近代日本の文明評論におけるドイツ思想・文化受容の意義」という研究テーマに従事してきた申請者が、1996年以降に発表してきた20本の論文を整理し、「序章 博文館「太陽」までの「批評」の展開」、「第一部 博文館「太陽」における高山樗牛と姉崎嘲風の活躍」、「第二部 ドイツ文明批評による日本文明論の展開」、「第三部 「新理想主義」受容と「文化主義」の提唱」という構成でまとめたものである。

本学位論文のテーマは、19世紀から20世紀にかけて受容されたドイツ思想・文化を媒介として、近代日本の知識人たちが、「国民国家」確立期における「国民文化」構築の重要性について認識し、その発展に寄与していった内実をたどることである。当時の国情や知識人の意識が、近代日本におけるドイツ思想・文化受容とその表現形態や発展の軌跡に反映すると同時に、ドイツ思想・文化受容の成果そのものが、「国民精神」の基盤を構築することによって、相互の響き合いによる「国民文化」の価値創造を実現させたことを浮き彫りにすることをめざしている。

その際、論考の対象とした思想家・文学者の論説の主要な発信媒体となった総合雑誌「太陽」（博文館）に注目している。明治28（1895）年1月創刊号の発行部数が285,000部と言われ、以後10年以上にわたって毎号約100,000部という破格の発行部数を誇った当時の代表的総合雑誌「太陽」は、「国民文化」創成において読者にも圧倒的な影響を及ぼさずにはおかなかったと考えられるからである。

全体の三部構成のうち、まず「序章」で、イギリス・フランスの批評概念とドイツ美学の概要、「太陽」創刊に先立つ明治20年間の「批評」の成立と展開を概観し、大西祝による「批評論」の本領を概括している。「批評」が自らのアイデンティティを問い、新たな「批評」の可能性を志向するという自己言及性を発揮し、その成果が日本の論壇・文壇で自家薬籠中のものとされたとき、「近代」のメルクマールが日本文学に刻印されることになったことを述べ、その過程での大西祝による批評論が近代の批評として画期的な意義を有することに言及している。

「第一部」では、「第一章 「太陽」掲載のドイツ思想・文化関連記事」、「第二章 「太陽」文芸欄主筆期の高山樗牛」、「第三章 樗牛追悼の嘲風評論」、「第四章 姉崎嘲風の「戦争」と「女性」」の章立てのもと、「太陽」誌上における樗牛と嘲風の評論活動を時系列的にたどっている。博文館「太陽」が明治国家権力の歴史的・階級的な性格の形成期における思想・文化の動向・思潮を映し出すスクリーンの役割を担っていたことを指摘し、ショーペンハウアーやニーチェを中心とするドイツの思想・文化の内容がどのように理解され論じられていたか、その受容のあり方が、当代の日本の時代状況や知識人の精神性をどのように反映しているか、といった観点から、博文館「太陽」に掲載された樗牛と嘲風の文明批評を取り上げている。

続く「第二部」では、「第一章 樗牛と嘲風のドイツ文明批評による日本文明論」、「第二章 森鷗外による樗牛・嘲風評論への批評」の章立てのもと、樗牛、嘲風、鷗外の文明評論を取り上げるとともに、三者の間の論争および批評上の応答関係を追っている。具体的には、樗牛と鷗外の審美学論争、嘲風の「洋行無用」論への鷗外の反駁など、樗牛・嘲風との切磋琢磨による鷗外の文学活動の成果として、日清・日露戦争期の日本文学におけるドイツ思想・文化受容の意義を論じている。

最後の「第三部」では、「第一章 森鷗外の「大学」論と「学問」観」、「第二章 森鷗外の「文化」認識とオイケン受容」、「第三章 金子筑水のドイツ思想・文化受容と近代日本精神論」、「第四章 金子筑水の「両性問題」論」、「第五章 桑木嚴翼の「文化主義」」の章立てのもと、鷗外、筑水、嚴翼の評論活動を取り上げ、明治期の思想界における「文明」概念の発生と展開、そこから「文化」概念が

分立し、大正期に「文化主義」が提唱されるにいたる過程で、ドイツ由来の「生の哲学」「新理想主義」が果たした役割を指摘している。

本学位論文では、具体的に、明治中後期から大正期にかけて、樗牛、嘲風、鷗外、筑水、巖翼ら時代のオピニオンリーダーとなったドイツ系知識人が、ショーペンハウアー、ハルトマン、ニーチェ、ヴァーグナー、オイケンらのドイツ哲学を受容しつつ日本文明論などの批評活動を展開していった過程を跡づけている。

(注) 2,000 字程度にまとめること。